

## 大阪町家をサイトスペシフィックに利活用する町家活用モデル

### 【代表者】

小池志保子 大阪市立大学 生活科学研究科 准教授

### 【共同研究者】

小伊藤亜希子 大阪市立大学 生活科学研究科 教授

福田美穂 大阪市立大学 生活科学研究科 准教授

碓田智子 大阪教育大学 教育学部 准教授

西川章江 大阪教育大学 教育学部 准教授

### 【研究概要（申請書より抜粋）】

大阪市内の伝統的木造住宅は大阪の住文化を伝える貴重な建造物であるが、戦災によって大半が焼失し、さらに近年は老朽化による建て替えやマンション開発によって、急速にその姿を消しつつある。本研究では、都市居住の遺構である町家の特性を活かした空間体験に着目し、町家の持続的な保存・活用につながるサイトスペシフィックな町家活用モデルを検証する。

この研究では、住まいとして住み継がれてきた町家の住空間を大きく損ねることなく、むしろ、住空間の特性を活かした使い方を検証する。具体的には、次の2つの活用方向から検討する。1つ目は、町家の空間をそのまま活かし、美術作品と町家を同時に体験できる美術展示の企画である。ホワイトキューブの展示空間とは異なる床の間や襖、縁側がある住空間の活用、欄間や襖、屏風などの季節ごとに入れ替え可能な可変性の高い設えをつかった建築と美術作品が一体となる町家全体を体験する企画を用意し検証する。2つ目は、様々な人数規模の国際会議や講演会等での町家の住空間の活用である。さらに、住空間に備えられたキッチン設備を活用した料理の提供を通した町家の空間体験についても検証する。

以上の検証の場として、大阪市立大学都市研究プラザ・豊崎プラザを利用する。豊崎プラザの大阪近代町家・長屋群は国の登録有形文化財に登録されており、大阪の住文化を伝える貴重な建造物である。研究のとりまとめ、および、空間構成の分析を小池が、住まいを使うことの効果について小伊藤が、空間の活用を通した教育の効果について碓田が、国際的な活用の効果について福田が、食を核とした活用について西川が検証し、町家の住空間を持続的、かつ、サイトスペシフィックに活用するための空間セッティングの方法と可能性を探る。